

評議員会議事録

日 時：2004年7月10日(土) 11:00～15:15

場 所：国立天文台三鷹大会議室

出席者：井上，太田，岡村，小山，柴田，福井，舞原，安東，家，
小杉，観山，山本 以上12名

欠席者：池内 以上1名

有効委任状提出者：海部，加藤，須藤，千田，高橋，高原，牧島，
吉井，梅村，大橋，佐藤，谷口 以上12名

他に理事会から，松田，祖父江，若松，杉山，郷田，関井，松原，土居，
及び東條事務長が参加した。

議事に先立ち，議長及び署名人を選出した。

議 長：岡村定矩

署名人：太田耕司，安東正隆

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2004年3月23日)の評議員会議事録が報告され，承認された。

2. 2004年秋季以降の年会について

杉山理事より，2004年秋季(岩手大学)，2005年春季(明星大学)，2005年秋季(北海道大学，会場は札幌コンベンションセンター)で行われる予定の年会の準備状況等について説明があった。

3. 大学入試センター試験「地学」出題方式に関する要望書について(資料2)

杉山理事より，要望書作成の経緯と内容の説明があった。2006年度以降，大学入試センター試験において，地学Iと物理Iを同時に選択することができなくなることにに関して，日本天文学会も含む地球惑星科学関連学会合同大会参加20学会会長・理事長名で，大きな危惧を抱いていることの表明と，合わせて制度の改変を求める声明文を送付することであった。これまでに，大学入試センター理事長には，理事長宛の声明文を手渡した。今後は，文部科学省，国大協などへも要望書を提出する予定であるとのこと。今後の対応については，意見交換の結果，天文学会としても，初等・中等理科教育に関して大きな危機感を抱いていることから，改善のための方策を教育委員会を中心に今後検討していくこととなった。

4. その他

(1) 男女共同参画協会連絡会(追加資料)

天文学会も協力したアンケートの結果が資料としてまとまったので，披露された。

(2) 星座早見版

月の動きに関する新しい工夫に対して現在特許申請中の，日本天文学会編『月の動きがよくわかる光る星座早見』(三省堂)が披露された。

(3) 学生旅費補助について(追加資料)

安東評議員より，資料に基づき若手の会が秋季年会に行ったアンケート結果が報告された。

議 題

1. 新役員候補者(資料3)

松田理事長より、理事会の審議を経た新役員候補者が報告され、評議員会として承認した。

2. 新選挙管理委員候補者(資料4)

松松田理事長より、新選挙管理委員候補者が報告され、評議員会として承認した。

3. 各種委員会新委員候補者(資料5)

松松田理事長より、各種委員会新委員候補者が報告され、評議員会として了解した。教育委員会については、小中高の理科教育に関する人員を増強すべきであるとの意見があり、理事会でさらに検討することとなった。

4. 2005年度事業計画書案(資料6)

杉山理事より2005年度事業計画書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

5. 2005年度収支予算書案(資料7)

関井理事より2005年度収支予算書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

6. 新事業について(資料8)

祖父江副理事長から理事会で検討を行った以下の新事業の提案が報告された。

(1) 日本天文学会百周年記念事業、その内容としては百年史編纂、記念切手発行、記念式典などが考えられる。

(2) 欧文研究報告月刊化に向けて購読料減額、または無料キャンペーンを行う。

(3) 学会事務所住環境の改善。

(4) 学会事務所建物新設。

(5) コンベンションセンターの活用などによる年会会場に対する支出。

(6) 会費値下げ。例えば、正会員(学生)の会費を3,000円減額し、10,000円にする。

ここで、(3)と(4)は、採用する場合にも、どちらか一方である。なお、教育普及講師派遣と欧文研究報告編集局事務職員の常勤化については、すでに前回の評議員会で決定済みである。引き続いて意見交換を行った。(1)については、記念式典、祝賀会は年会中に合わせて行うべきであるとの意見が出され、さらに、天文学キャラバンのようなものを組織して全国的に一般向けの講演を行う、論文選集を編む、などの新たなアイデアも出された。百年史編纂については、記録としての意味、科学史として見地などからも、行うことに前向きな意見が多かったが、中途半端ではなく良いものを作る必要があることや、編集委員会の人選の難しさなどについて意見が交換された。編集委員として科学史の専門家を入れたらよいのではないかとの意見もあった。(2)については、その費用対効果について質問があり、前回の半額キャンペーンの成果について、理事会側から説明があった。(4)については、日本天文学会が不動産を持つことが、将来大きな負担となるのではないかと、という懸念が複数だされ、全体としては否定的であった。

(5)については、年会の会場費はできるだけ安い金額でやるべきであるとの意見が出され、やはり否定的意見が主であった。

7. 特別会計の基金化に関する提案(資料9)

関井理事より、資料に基づき、特別会計を基金化する必要性の説明と、そのための財務規程案が提案された。意見交換のあと、財務規程の文面を若干修正することとしたうえで、提案は承認された。

8. 年会運営について(資料10)

福井評議員より提案された年会運営の方法に関する2つの提言について杉山理事より紹介があり、福井評議員から補足説明があった。1つめの提言は、現状では年会実行委員会が企画セッションの採択の可否を行うなど、単なる実務的な役割を越えてSOCとし

での役割を果たしているが、負担も大きいと考えられるので、この機会に年会運営の問題点を整理し、ガイドラインなどを示す必要があるのではないか、というものであった。2つめは、林 忠四郎賞受賞者の受賞記念講演を年会中に行うべきである、という提言であった。前者について、土居年会実行委員長から現状の説明があった。その後意見交換を行い、当面は理事会からの提案である、企画セッション、特別セッションについて、締め切りを早めることで、一つ前の年会中の理事会に年会実行委員会から提案、その場で審議し決定する、という方法が認められた。年会のあり方、プログラムの編成の方法については、講演数の激増に伴って、これまでと同じやり方を続けるわけにはいなくなってきていることも認識され、今後もこの問題は、年会実行委員会、理事会、評議員会で継続して議論していくこととなった。2つめの提案に関しては、林 忠四郎賞、研究奨励賞のどちらか、又は両方とも、発表を現在の春から秋の年会に移し、総会後、受賞記念講演を行う方向が決定された。今年度については、発表、受賞式はすでに終わっているが、林 忠四郎賞受賞記念講演会を実際に秋の年会中に行うことが可能であるか、年会実行委員会で検討することとなった。

9. ジュニアセッション実行委員会設置について(資料11,12)

杉山理事より、標記委員会(日本天文学会の内規上は小委員会)新設に関する説明があった。現状では、年会中でのジュニアセッションはボランティアを中心に運営されている。その運営の母体を、正式な小委員会として認定したいという提案である。ジュニアセッション実行委員会に関する新たな内規案、及び関連する内規(日本天文学会委員会等に関する共通内規、天文教材委員会に関する内規、創立100周年記念出版事業編集委員会に関する内規)の変更案が資料12として示され、承認された。合わせて、この委員会を2005年度事業計画書案に盛り込むことも了承された。

10. プラズマ宇宙物理に関する共催セッションについて(資料13)

杉山理事より、事情説明があった。日本物理学会領域2(プラズマ物理関連分野)のアドバイザーボードからの提案で、日本物理学会、日本天文学会、日本地球電磁気・惑星圏学会において、交互にプラズマ宇宙物理に関する共催セッションを開きたい、という内容である。すでに検討会が開かれ、天文学会としては2005年の10月、または2007年の9月のどちらかで共催を引き受けたいこと、さらには、講演者に関しては世話人が集める、講演する人は主催学会では非会員であったとしても、共催学会の会員であるならば、主催学会の会員と同等の資格でその回の年会に参加できるように計らう、などの具体的な共催の実際についても合意がとれている。その後、日本物理学会領域2アドバイザーボードメンバーである柴田評議員より、補足説明があった。すでに理事会では、日本天文学会としてはこの共催セッションは企画セッションとほぼ同等のものであり、講演数の増加に関しては、現在行われているものより一日に限りパラレルセッションの数を一つ増やすことで対応できるのではないかとということで、とりあえず1回共催セッションを行ってみる、という合意を得ている。意見交換の後、評議員会としても、この合意を承認することとなった。

11. 2004年秋季総会議題(資料14)

杉山理事より資料に基づいて提案があり、了承された。

12. その他

(ア) 欧文研究報告の翻訳に対する著作権について(資料15) 欧文研究報告に掲載された論文を日本語に翻訳し、一般に公開したい、との希望が会員よりあり、蜂巢編集委員長が対応した経緯について、杉山理事より説明があった。自分自身の論文を日本語に翻訳したい、という希望ではあったが、原文がネットワーク上での閲覧に関してアクセス制限がかかっている最近三年以内のものであることから、翻

訳して自由に外からみることのできる状態にすることは望ましくない旨を伝えたとのこと。資料に基づき、著作権法についての説明が杉山理事よりあった。その後意見交換が行われ、評議員会としては、原則として本人による二次使用に関する制限はできるだけ行わない方向が確認され、出典が明記さえされていれば、原文にアクセス制限がかかっていたとしても、翻訳、及びその公開については認めるべきであるとの結論となった。しかし、営利目的の使用をどう区別するのかなど、一部デリケートな問題があるのではないかとの指摘もあった。

(イ) 天文学会創立100周年記念出版事業第一次案について 岡村編集委員長より、第一次案が出来上がったこととその内容について説明があり、会員全員に対して意見を求める予定であることが報告され、その後意見交換が行われた。

(ウ) 次回は9月22日(水)、秋季年会会期中の昼休み岩手大学で開催することとなった。

2004年7月26日

議長 岡村定矩 印

署名人 太田耕司 印

署名人 安東正隆 印